

## 寄り添い、心を通わせる

### 「看護の心」で社会は変わる



いいくみこ／兵庫県立看護大学大学院博士後期課程修了。日本看護協会常任理事を経て、2012年から現職。共著に『生活習慣病予防のためのグループ支援』等。

公益社団法人日本看護協会 専務理事

### 井伊久美子さん

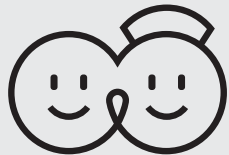
高齢化が進むにつれ、医療を必要とする人が増え、そのニーズも多様化しています。これからの医療は、医師や薬剤師、栄養士、理学療法士ら多くの人が関わり、チームで支えていく必要性がさらに増していくとでしょう。看護職は、そんなチーム医療のカギを握る存在になると考えています。

また、病院内だけでなく、介護施設と連携したり、患者が自宅に戻ってからも介護職員と情報交換したりすることも近々あります。患者や家族の一番身近なところで手を差し伸べられる存在なのです。

さらに、保健師は生活習慣病予防のために市区町村単位で保健指導をしていますし、助産師は安心して子どもを産める環境づくりや育児支援にまで踏み込んで活躍しています。病気の時だけそばにいるのではなく、人の一生の様々なシーンに看護職は深く関わっているのです。

看護の本質は、「回復しよう」「やってみよう」といったその人が持っている前向きな思いと力を引き上げるために、寄り添って支えることにあります。きょう5月12日の「看護の日」と「看護週間」（看護の日を含む日曜日から土曜日）が、その姿勢や心を感じたり振り返ったりするきっかけになれば、みんなにうれしいことはありません。そして、看護職が業務を通じてさらに輝けること、また看護の心が多くの人に届き、安心であったかな社会が築かれることを願っています。（談）

# きょう5月12日は「看護の日」です



看護の心をみんなの心に

## 5月12日は 看護の日